

シティプロモーション基本方針(案)に関する意見募集の結果

1. 案件名	シティプロモーション基本方針(案)に関する意見募集の結果	
2. 担当所管	東村山市経営政策部都市マーケティング課	
3. 概要	(1) 意見募集期間	平成28年6月3日(金曜)から平成28年6月22日(水曜)まで
	(2) 周知方法	東村山市ホームページ、市報ひがしむらやま平成28年6月1日号、意見回収箱の設置場所へのポスター掲示
	(3) 意見回収箱の設置場所	市役所情報コーナー、 いきいきプラザ総合相談窓口 ワンズタワー内地域サービス窓口 各公民館 中央図書館 富士見図書館 ふるさと歴史館 市民スポーツセンター 各ふれあいセンター 青葉地域センター 美住リサイクルショップ 社会福祉センター 子育て総合支援センター「ころころの森」
4. ご意見をお寄せいただいた人数	2人	
5. お寄せいただいた意見の数	8件	
6. お寄せいただいた意見の内容と市の考え方	次ページのとおり	

番号	ご意見(要旨)	市の考え方
1	<p>この方針を通して読んだ時、とても違和感を覚えました。文体から、市としての考えを述べるというより、考えを「教える」もしくは「指導する」ような上から目線を感じたからです。しかし、p.22の「おわりに」を読むと、この基本方針は市役所内の各部署に対する内規であるとわかりました。それならば、目次の前の「はじめに（本方針の位置付け）」にハッキリと誰に対する基本方針なのかを明示すべきだと思います。混乱の原因は2行目以下の一文だと考えます。「本方針は、市の各部署が各々のシティプロモーションを推進していくにあたり、基本となる方向性を定めることを目的としています。一部、シティプロモーションを進める上で担い手となる、市民や事業者に対してご協力いただきたい事項についても記載しています。」を「本方針は、市の各部署が各々のシティプロモーションを推進していくにあたり、基本となる方向性を定めています。」とすれば、内規であることがハッキリします。カットした「市民や事業者に対してご協力いただきたい事項についても記載しています」は読み進めばわかることなので、ここは誰に対する基本方針であるのかを端的に示した方がよいと思います。また、同ページの5行目「本方針を定めるにあたり、まずは次のことを共有したいと思います。」は「本方針を定めるにあたり、まずは各部署と次のことを共有したいと思います。」とした方が、策定した都市マーケティング課の意思が明確になってよいと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、本方針は、市役所内の各部署が取り組むべき内容を記載しているものですが、シティプロモーションを成功させるためには、行政だけではなく、東村山に関わる全ての人の力が不可欠となります。このことから、本方針では、市民の皆さまや事業者の方々にもご協力いただきたい内容につきましても、一部記載する必要があるとの認識から、前段部分である「はじめに」で触れたところです。</p>

番号	ご意見(要旨)	市の考え方
2	<p>・1ページ「1 なぜシティプロモーションが必要なのか」について</p> <p>要約部分の2番目「シティプロモーションは、少子高齢化・人口減少を克服し、まちの活気を維持、向上させる取り組みの一つです。」を「シティプロモーションは、少子高齢化・人口減少を克服し、まちの活気を維持、向上させる「地方創生」への取り組みの一つです。」とした方がわかりやすいです。サラッと読むと、「地方創生」＝「シティプロモーション」と受け取られる可能性が高いです。あくまでも「地方創生を実現させる一手段」であることを要約部分で明示すべきだと思います。</p>	<p>東村山の地方創生を実現するためには、様々な取り組みを重層的に推進することが重要となります。このことから、ご指摘のとおり「地方創生」＝「シティプロモーション」ではなく、本文に記載してあるとおり、シティプロモーションは、地方創生を実現させるための一手段であるため、本文を踏まえた文章に修正いたします。</p>
3	<p>・3ページ「2 シティプロモーションとは？」について</p> <p>要約部分の2番目は、そのまま読めば「シティプロモーション」の目的を「定住人口・交流人口の増加を目指すため」と「東村山ファン」を増やす」の2つに受け取れます。しかし、「定住人口・交流人口の増加を目指すため」は「地方創生」の目的であり、「シティプロモーション」の直接の目的は「東村山ファン」を増やすことのみです。だとすれば、この一文は、1番目の要約を受けて、「この実現のため、当市のシティプロモーションは、東村山にある地域資源の魅力を市内外に発信し、東村山に魅力を感じ、愛着・好感を持つ人＝「東村山ファン」を増やす取り組みとします」とした方がスッキリすると思います。</p>	<p>「シティプロモーション」「シティセールス」という言葉には、全国的に統一された定義は存在しません。従いまして、東村山市でいうシティプロモーションとはどういうものを明らかにすることが重要であることから、あえてこのように記載したところです。</p>

番号	ご意見(要旨)	市の考え方
4	<p>・14ページ「5 東村山の魅力とは？」について</p> <p>要約部分は2つとも最後が「シティプロモーションを展開します」となっていますが、「シティプロモーション」の目的を再度明確化させるために、1番目の要約部分の最後を「東村山ファンを増やしていきます」とした方がよいと思います。また、2番目の要約部分の「ブランドメッセージ「たのしむらやま」をハブにしたシティプロモーション」が今ひとつよくわかりません。「ハブ」に代わるわかりやすい言葉にするか、理解しやすい例示をすべきだと思います。</p>	<p>「東村山ファン」を増やすために、「身近な自然」「住宅都市」「市民力」などのまちの資源を活用した取り組み(手段)がシティプロモーションであることから、文言の整理をいたします。</p> <p>「ハブ」の例示といたしましては、16・18・19ページで述べております。</p>
5	<p>・18ページ「6 シティプロモーションの手法」について</p> <p>要約部分の2番目にある「シティプロモーションは、行政だけではなく、市民・事業者・東村山に関わるすべての人と一緒に進めることが効果的です。」は「シティプロモーションは、行政だけではなく、東村山ファン度の高い市民や事業者と一緒に進めることが効果的です。」とした方がより具体的で理解しやすいと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、シティプロモーションを推進していくには、東村山ファン度の高い市民の皆さまや事業者の方々と進める方が効果的ですが、東村山ファン度の高い市民の皆さまや事業者の方々に限らず、東村山に関わる全ての人々が協力してシティプロモーションを進めていく重要性について述べております。</p>
6	<p>・22ページ「おわりに」について</p> <p>「市役所の職員全員が"東村山のセールスマン"」の一文なのですが、この基本方針が内規であることを考えれば、これでもいいのですが、これは最低限の目標です。せっかく「東村山ファン」という言葉をつくったのですから、「市民一人ひとりに「東村山ファン」になってもらい、ともに「東村山のセールスマン」となってオール東村山の体制を築き上げることが最終目標です」ぐらいのことは入れて欲しいし、職員に意識して欲しいと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、市民の皆さまや事業者の方々も含め、すべての方に「東村山のセールスマン」になっていただくことが理想であり、また、その状態を目指すべきだと考えております。</p> <p>しかしそのためには、まずは職員一人ひとりがシティプロモーションについて理解し、「東村山のセールスマン」になることが極めて重要であるため、あえて職員にターゲットを絞って記載したところです。</p>

番号	ご意見(要旨)	市の考え方
7	<p>・全体について</p> <p>とてもよくできた基本方針だと思いますが、実現のための推進体制が明記されていないのはなぜでしょうか？都市マーケティング課の役割はこの基本方針を策定したら終わりなのでしょうか？他市のシティプロモーション基本方針では、広報課との整合性などシティプロモーションの推進体制が明記されているほか、各部署を横断したシティプロモーションについての会議や、有識者を交えた委員会などを設置したり、シティプロモーション計画の策定にまで踏み込んだ記述があったりするのですが、それが無いのはなぜですか？以上、よろしくお願いします。</p>	<p>シティプロモーションは、都市マーケティング課のみが行うものではなく、本方針に基づき、各所管が自分たちの業務にシティプロモーションのエッセンスを融合させて取り組むものです。「はじめに」において、本方針はすべての計画を横断する視点になると記載しているとおり、当然都市マーケティング課が全体調整を行うこととなりますが、シティプロモーションを行う主体は全所管になることから、改めて推進体制については記載しなかったところです。</p> <p>なお、「おわりに」にも記載のあるとおり、本方針は当面の歩むべき方向性を記載したものです。今後、より進化したシティプロモーションを展開していくために、本方針の改定なども必要に応じて実施すべきものだと考えております。</p>
8	<p>東村山ファンを増やすため、20代、30代をターゲットにして「たのしむらやま」をアピールし、イベントなどを行うのはそれはそれで良いのだけれど、何か物足りなさを感じます。</p> <p>人が集まる（一時的ではなく、継続して）ために必要な要素としては「文化」というキーワードも重要と考えますが、そのあたりが案には伝わるものがなく、残念に思う。</p> <p>ただ「楽しい」だけではなく、「知的な魅力」も欲しいところ。</p>	<p>本方針に触れているものだけが、シティプロモーションにおける重要な要素ではなく、ご指摘の「文化」などは、人が集まるための必要な要素として挙げられます。</p> <p>東村山に顕在・潜在している多くの魅力を「たのしむらやま」に結びつけて発信するなり、イベント化するなりして、市内外の方に身近に感じていただくような取り組みを行うことが重要です。「文化」や「歴史」などの知的な魅力も含め、「東村山はたのしいまちである」というイメージを市内外に伝えるとともに、つくりあげていくことができればと考えております。</p>